

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(地理歴史)科目：(日本史B) 対象：(第2学年A組～F組)

科目担当者：

教科・科目の 指導目標	1. 基本的な歴史的事項を覚えるとともに、大きな歴史の流れの中に位置づけることができること。 2. 大きな歴史の枠組みを多面的・多角的に把握すること。 3. 各時代の特徴を理解して、幅広い歴史的教養を身につけること。 4. 歴史的事象の背景・原因・結果・影響などを理解するための歴史的思考力を身につけること。
----------------	---

	高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	1. 一つの事柄に対して答えるような問題や、基本的な知識を問うような設問での正答率は、比較的高い（日本史的な設問ではおおむね80%以上）。 2. 地図やグラフを使い、文章で答える問題や、いくつかの事柄を組み合わせで解答する問題、時代の流れをふまえて解答する問題の正解率は40%から～60%であった。	1. 日本史の歴史的な流れを全体的に把握できるように通史的に授業を組み立て、基礎的事項・応用的事項の定着を図る。 2. 日本だけでなく、世界地図も活用し、歴史を空間的な視点からとらえさせることに留意しながら授業を進める。 3. 年表を活用し、地域ごとの歴史の縦糸だけでなく、世界的視点から見た横糸の把握を図る。 4. 「学力調査」に向けた問題演習を行い、知識の定着を図る。	1. 年間指導計画の作成 学習事項の確認と目標の明確化 2. 授業への取り組みを改善 史資料を利用し、生徒の思考力を養う設問を重視 3. 確認テストの実施 定期的な確認テストを実施することで学習内容の定着をはかる。 4. 放課後の指導 社会科教室を利用して生徒の質問に対応。

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			